2012 春闘集中回答指定日を終えての談話

日本食品関連産業労働組合総連合会事務局長 山本 健二

1. 2012 春季生活闘争(以下「2012 春闘」という)は、海外の経済・金融不安による円高、タイの洪水等の中で、自動車や電機等の業績が急激に悪化するという"逆風下"で闘っている。

こうした状況を踏まえ、連合は「有志共闘」に対し、13日(集中回答指定日前)までの前倒し決着の要請を行い、回答引き出し状況について連合内で記者会見を開き、社会的相場形成の牽引役として積極的に役割を果たしていくための新たな試みを行った。しかし、2012 春闘の第一のヤマ場を終え、3月16日に連合が公表した賃上げ結果は、平均方式で5,429円であり、昨年と比べて332円下回っているものの、パート労働者等時間給引き上げは、平均妥結額で、15.46円であり、昨年と比べて5.46円上回っている。

しかしこの結果は、東日本大震災によって被災した地域を復興・再生し、 日本全体の経済を早期に持続的・安定的に回帰させていくための取り組みと しては不十分と言わざるを得ない。

2.フード連合の3月7日現在の平均要求方式94組合の要求水準は6,047円(加重平均)であり、昨年の同時期を223円上回っている。フード連合の方針を踏まえ、マクロの視点を入れた要求を掲げて2012春闘を闘う姿勢がこの要求に示されている。

3月15日現在の妥結組合は30組合であり、加重平均で5,542円(1.85%)となっており、比較可能な一昨年の同時期と比べて41円の減となっているが、すべての組合が賃金カーブ維持分を確保している。ベアや賃金改善を勝ち取っているのは5組合であり、平均して653円。賃上げ以外では、「一時金の増額」、「休日の増加等による労働時間の短縮」、「非正規労働者の時給等の引上げ」、「最低賃金の引き上げと協定化」、特別課題である「公的年金の受給空白期間への対応」等、あらゆる改善原資を勝ち取った組合は18組合となっており、引き続き粘り強い交渉を展開している。

先行組合が「共闘」し、「社会的使命感」を強く持って粘り強い交渉を行い、 経営側のミクロの視点、「労働コスト抑制策によるコスト削減」の分厚いカベ を突き崩してきた結果である。

この間の各組合の精一杯の闘いに対して、改めて敬意を表するものである。

3. 2012 春闘は、今週以降3月月内決着に向けて第二のヤマ場を迎える。

未解決組合や中小組合に対しては、先行組合がたたき出した妥結結果を交渉に反映させるとともに、これ以上の格差を拡大させないためにも、<u>要求主旨に拘り、あらゆる改善原資に係る有額回答を引き出し、上積みをはかり、昨年実績以上の成果を獲得するよう</u>交渉体制の強化を再要請するとともに、業種部会や大手組合に対しては、中小組合やグループ企業の賃金交渉に対して支援体制を取っていただくことを要請する。

フード連合も、各組合の闘いを支援・強化していくため、引き続き、「中小 労組支援センター」における支援・情報発信による相場の波及による全体の 底上げに努めていく。

共に最後まで頑張ろう。